



## 未来につなげる 金箔の輝き

石川県箔商工業協同組合  
副理事長

作田 一則

Kanazawa-Haku

# News Letter

金箔技術振興研究所  
ニュースレター No.10

2013.12.1

2015年春、北陸新幹線の金沢開業が予定されています。石川県、そして金沢にとっても、交流人口の増加が期待されるだけに、地域経済の活性化に大きな役割を果たして欲しいと願っています。石川県箔商工業協同組合としても、金箔による装飾を駅舎に採用していただけるというお話や、開業に合わせホテル等が金箔を用いた改装をしたりと、「箔のまち・金沢」のPRとイメージアップにもつながるだけに、大いに歓迎をしている次第です。

将来に明るい話題があることは、喜ばしいことですが、いざ箔業界の現状を見ると大変厳しいと言わざるを得ません。従来、金箔の最も大きい供給先は、仏壇業界でした。それが今や人々の宗教観や生活様式が変わり、仏壇業界における金箔の需要は、年々減り続けています。当然、生産量も最盛期に比べて大きく減少してきており、「新たな需要の創出」が早急な課題となっています。しかし最近では、金箔とあまり馴染みのなかった分野・業界からも少しずつですが需要の展開が見受けられます。

さらに需要の創出を図るためには、金箔の「品質向上」と「付加価値の創造」も重要な課題です。金箔は、日本だけに限らず世界中で使われている、いわば国際的素材(商品)です。比較的安い外国箔は、日本にも輸入されていますし、それらの金箔と競争をしていくためには、より品質が高く、価格競争力のある金箔を製造していく必要があります。たゞすべての金箔を、この考えに当てはめるのは危険な判断だと思います。金沢の金箔には、伝統的な技法で製箔される縁付箔と、量産に向けた断切箔の2種類があります。縁付箔は、金沢そして日本が誇れる、伝統が生きた高品質の金箔です。これはいくら時代が変わろうとも、伝統として残していかなくてはならない、大げさな言い方をすれば「文化」だと私は考えています。これは変えずに残していかなくてはなりません。縁付箔は、金沢箔の特色そのものです。その分、断切箔には、革新としての期待をかけています。

日本には、金箔を使った重要な神社や仏閣が多数ありますが、それらの古い建築物もほとんどが伝統技術をもとに建てられています。それならば修復の際には、金箔も日本の伝統箔である縁付箔を使うのが、好ましいのではないのでしょうか。幸い、金箔を使った古い建築物を修復する際には、多少高くても日本の伝統箔を使用しようという考え方を、最近では関係省庁も持っているので、箔組合としても日本の文化を影で支えるという意味において、非常に喜んでいきます。

箔業界が抱えている課題はいろいろありますが、それらを解決していくためには、自助努力だけでは限界があり、行政の支援が欠かせません。そこでまず身近な存在として頼りにしたいのが、金箔技術振興研究所との連携です。特に私が期待しているのは、断切箔用の革新的な打ち紙の研究開発です。「作業時間の短縮、薄い箔が打てる、金そのものの特色が出せる」、そんな打ち紙をぜひ開発して欲しいと願っています。

そのような連携を含めて、箔組合としては、将来を見据えた様々な取り組みをしていながら、日本で唯一、箔を製造している大きな産地として、金箔を含めた金箔の輝きを、永遠に残していくことが使命だと考えています。それにより地域の文化と経済に貢献していくことが出来れば、この上ない喜びです。

### 作田一則(さくだ かずのり) 略 歴

- 1953年 三重県に生まれる
- 1975年 日本体育大学体育学部卒業
- 1976年 作田金銀製箔(株) 入社
- 2000年 作田金銀製箔(株)代表取締役 就任 現在に至る
- 2005年 石川県箔商工業協同組合 副理事長 就任 現在に至る
- 2010年 (協)石川県観光物産館 副理事長 就任 現在に至る  
金箔技術振興研究所 運営委員 就任 現在に至る
- 2011年 (社)石川県物産協会 副理事長 就任 現在に至る  
(株)金銀箔工芸さくだ代表取締役 就任 現在に至る

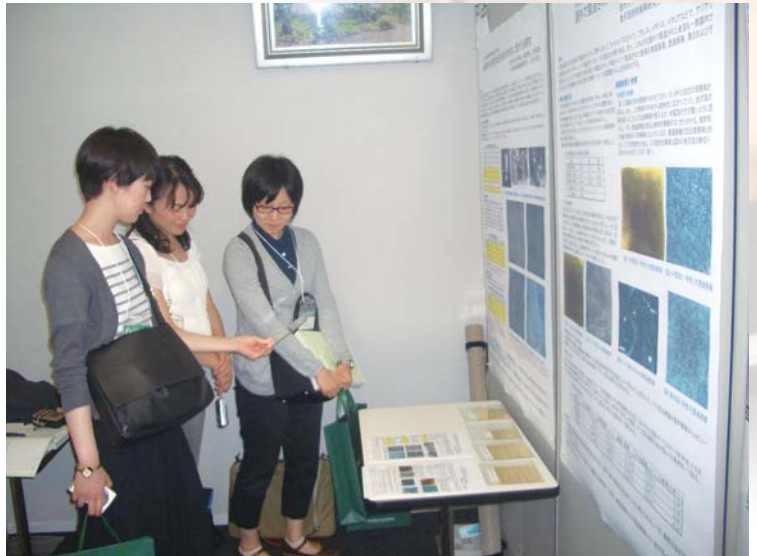
## Topics.1 文化財保存修復学会で2件の学術発表—レポート

文化財保存修復学会の第35回全国大会が、7月20日(土)・21日(日)の日程で、東北大学百周年記念会館(仙台)で開催された。本学会は、国内外の文化財の保存・修復・展示にかかわる大学の研究者、博物館の学芸員など、人文科学、自然科学、芸術学などを専門とする幅広い分野の会員で構成されている。

当研究所からは、金箔に関する研究として、「昭和時代初期の金箔金箔の形状に関する研究」と題して、北川所長より、三浦製箔所で製作されたとされる金箔の厚さは $0.05\mu\text{m}$ 前後であり、現在のものよりはるかに薄いことが報告された。

続いて、金沢大学の大角富康氏より、「国内外で製造された金箔の形状調査」と題して、中国箔には断切箔特有の放射状の模様が見られ、膜厚は金箔より少し薄く均一であること、一方、ドイツ箔は厚く、透過画像の模様から、製箔法において金箔とは基本的に異なるとの内容の報告がなされた。いずれの研究も、当研究所と金沢大学との共同研究の成果である。

金箔は建築物の内外装をはじめ、仏壇・仏具や美術品などに昔から大量に使用されていることは周知であるが、その特性の違いについてはほとんど知られていないことがわかり、今後のさらなる特性の解明に期待が寄せられた。



## Topics.2 金箔まつりin 東京—開催レポート

石川県箔商工業協同組合が、箔の日(8月9日)に毎年市内で開催している「金箔まつり」を、東京・丸の内での東京シティアイで8月9日・10日の二日間にわたりPRイベントとして行いました。2015年春に迫った北陸新幹線の金沢開業に向け、金箔により金沢をPRすることを目的としており、会場では組合6社による箔工芸品の展示販売や金箔青年会がはがきへの箔貼り体験コーナーを設けたほか、金箔のオブジェ「なぎさの舞台」の展示、裏千家淡交会石川青年部によるお茶の提供などが実施され、大変多くの方にご来場をいただきました。また、金沢においても金箔青年会により8月9日に東山の宇多須神社において奉納箔打ちが行われました。



## おしゃれメッセ2013 特別企画事業 しいのき迎賓館プロジェクションマッピングレポート

金沢市中心部にあるしいのき迎賓館の建物をスクリーンに見立て、金沢の伝統工芸・文化・芸能をモチーフとした映像を投影する「プロジェクションマッピング」が、平成25年10月11日(金)・12日(土)の夜、おしゃれメッセ2013の特別企画として初めて行われました。煌びやかな金箔が建物全体を包み込む映像では、華やかで幻想的な金沢が表現され、大勢の観客が魅了されていました。



## おしゃれメッセ2013 ＜SUTEKI '13～かなざわ工芸物語～100人×100品展＞レポート

金沢市民がセレクトとなり、「欲しい」「贈りたい」「勤めたい」の視点で選ばれた伝統工芸品が、平成25年10月16日(水)～20日(日)の期間、金沢21世紀美術館に展示されました。金箔などの伝統素材や、加賀象嵌などの伝統技術を用いながらも、モダンなデザインに仕上げられた生活アイテムの数々が、来場者の興味を引いていました。

また今年は、「100人×100品展」ツーリズムと題され、出展者の店舗を会場として様々な体験などが出来るメニューも用意され、魅力の幅が広がりました。

金沢21世紀美術館の会場では、各ツーリズムメニューを体験されている市民セレクトの映像が、壁面に投影され、ツーリズムの楽しさが紹介されていました。



## Topics.4 「金箔振興普及研究スタッフと大学研究者との研究懇談会」レポート

日時：平成25年10月28日(月) 午後4時～6時

会場：金沢職人大学校 第1実習棟新研究室

金箔技術振興研究所では、金箔の振興と普及を目指す研究グループを設けており、若手の箔関係者がスタッフになっています。そのメンバーのうち5名と、金沢大学理工研究域の大角准教授・関教授・山岸教授、石川県立大学生産資源環境学部の大角准教授ら大学研究者4名との研究懇談会が、金沢職人大学校の新研修室で行われました。

各スタッフからは、金沢の箔業界が抱える様々な課題の提起があり、中でも緊急性の高い枯渇化する恐れのある打ち紙と、職人の高齢化に伴う作業の軽減化に対する質問が、たびたび研究者に向けられていました。当研究所からの委託研究として、「金箔/箔合紙積層体の裁断機の開発研究」をされている関教授からは、「金箔の裁断機は、完成すれば高齢化した職人の大きな力になれるだろう」とのコメントに期待がかけられました。さらに「箔の製造には、どのような作業工程があり、どの部分を機械化すれば良いのかを知りたい」との要望が出され、スタッフは熱心にメモを取っていました。

箔業界の明日を担う若手スタッフからの切実な声を、直接、研究者に知ってもらう良い機会になった今回の懇談会は、気軽な交流の機会としても貴重なものとなりました。



## エクステリアへの箔塗装

現在、私の会社では、製箔工程の大半を自動化した装置を使って、良質の金箔が作れるようになった。開発に着手したのが40年前で、完成までに25年以上の歳月を費やした。本当は金箔需要がピークを迎えたバブル経済期までに完成できれば良かったのだが、到底、叶わなかった。バブル経済期の宗教用具製造業者を中心とした金箔需要は、月産約800万枚を確実に出荷していた。そのうち300万枚に限定し、その容量に対応することを目指し開発した。なぜ300万枚に限定したかということ、箔の販売方法に大いに疑問があったからである。それはなぜ金箔を掛けで売なのか、貴金属の流通はそうではない筈、この慣習を変えたかった。すなわち最良品で格安な金箔が望みならば、必ず現金取引を原則にしたかった。しかしそれも月産800万枚の市場があつての話だ。現在の金箔需要は、ピーク時の10分の1に減ってしまった。これでは最初の計画は果たせないし、たとえ100万枚の容量に作り変えても採算が合わなくなる。そうなると今後の仏壇業界の金箔需要の推移を真剣に調べ、データを集め、資料を読んで自分なりに推測してみると、仏壇・仏具業界の需要復活は難しく、むしろさらに減少するであろうと考えた。なぜここに至ったかの詳細は、いずれ要請があれば科学的に報告するつもりである。

こうなると金沢金箔は、今後どこへ向かえば良いのか大いに悩むところである。何とかしなければいけない。そんな折、ふと昔、観光でヨーロッパに行った際出会った、金の像やモニュメント、建造物が頭に浮かんだ。そうだ、これなら大量に金箔も使うし、見栄えもする。全世界に金箔の需要が拡がることになる。まず箔置技術修得の為に仏壇部材や寺院内陣の仕事から始めた。一方で、欧州で見たような金箔の像やモニュメントは日本にはどのくらいあるのか探したが、見当たらない。昔から日本人は金が好きならば、全く見当たらない。不思議に思いながらも、町づくり団体などに啓蒙して廻った。少しずつ注文が来るようになり、喜々として取り組んだ。すべて本漆を使い念入りに完成させていった。しかしこの稿のテーマである、屋外における金属箔押被体の伸縮と、塗料に及ぼす紫外線の影響で大打撃を受けることになる。後で思ったことだが、おそらく先人達も幾度となく試みたがこの二つの壁に阻まれ、箔塗装は屋外では無理と結論付けたに違いない。この二つを解決するものや方法がないものか、四六時中頭から離れることはなかった。

何かの拍子で子供の頃、自分の自転車のパンクは自分で直していたことを思い出した。タイヤをリムからはずし、チューブを取り出す、チューブに少しだけ空気を入れ、ふくらませる。それを水桶の水に順送りで潜らせれば、水泡でパンクの穴を見つけることができる。パンク穴の周辺を軽石でこすり、以前廃棄して準備してあったチューブを適当にハサミで切り、片面だけを軽石でこする。このチューブ穴周辺とチューブのゴム片に缶入りのゴム糊を人差し指で塗り、これを貼り合わせ、少し圧を加えながら密着させる。元通りリ

ムに戻し、普通どおり空気を入れると修理が終わる。チューブが被箔置体で、チューブ片が金箔で、ゴム糊は塗料・接着剤と考えればよい。空圧により伸縮を同時に対応していることになる。ゴム糊は今でもカバン作りの接着剤として利用されている。

これとよく似たものに「箔押しテクノロジー No.3」で述べたボンドがある。酢酸ビニールという有機物質ではあるが、完全に硬化しないため自由に伸縮する。東南アジアで見たパコダの金箔押しに使っていたゴム漆と同じである。水溶性なため、ぬるま湯で表面の粘度を戻すことが出来るのでそれを利用して箔押しが出来る。ただし可使時間が短いのでこまめに小範囲を手際よく作業を進める必要がある。終了後はコーティングはしなくても良いと思うが保護の意味で伸縮性のフリヤーを使えば良い。

自動車の塗装法も大いに参考になる。真夏の炎天下で、素手で触れないくらいに熱しているし、極寒の氷点下にあつても塗装面はしっかりしている。銅像などに比べ鉄板は薄く蓄熱量が低いせいかもしれないが、耐久性は極めて高く参考にする必要がある。

以上、いろいろ考察して来たがこの分野は新しいので確立されたものは何もない。一番大切なことは、トラブルが起きた時は根本原因を徹底して解明し、ケースバイケースで最善の選択をすることであり、常に研究心が必要である。

(石川県箔商工業協同組合 顧問 恩地博文)

### 金沢箔技術振興研究所 ニュースレター No.10

〒920-0831

金沢市東山1丁目3番10号 金沢市立安江金箔工芸館3階

TEL:076-225-8941 FAX:076-225-8942

営業時間/9:00~17:45

休業日/毎週土・日曜日、祝日および年末年始

<http://www.kanazawahaku-giken.jp>

Email:kanazawa-haku@wind.ocn.ne.jp



交通案内 ※当館には駐車スペースがございませんので公共交通機関をご利用ください。

- ・路線バス —— 金沢駅から北陸鉄道バス・JRバスで「橋場町」下車徒歩5分
- ・城下町金沢周遊バス —— 金沢駅東口のりば乗車「橋場町」下車徒歩5分
- ・金沢ふらっとバス(此花ルート) —— 金沢駅東口のりば乗車「彦三緑地」下車徒歩8分